



Subaru

男声合唱団

ニュース №337

'11. 12. 07

西島さんの替え歌写真

替え歌 「別れの一本松」

♪津波つなみ

こらえきれずに流されし
友らと別れた哀しさに
浜の鷗も鳴いていた
一本松のガレキの山によ
君想う



都島憲法九条の会 音楽と公演のつどい に出演 12月4日

□12月4日（日）、「都島憲法九条の会 7周年記念のつどい 音楽と公演のつどい」が都島商工会館で開かれ、昴はオープニング出演し、本並先生指揮、静さんのピアノ、石橋さんの司会で、「シルクロード」、「林道人夫」、「死んだ男の残したものは」、「なぜ」、「ねがい」、「百万本のバラ」、「歓びのナーダム」を心を込めて歌い、40人の会場の共感の拍手を受けました。ステージは全22名でした（写真はリハーサル風景、3名写真に入っています）。



□このところ司会といえば石橋さんで、親しみやすい当意即妙の大坂弁が定番になりました。

□このあと、「ロシア民謡合唱団コスモス」（コンサート12/11）の通しレッスンがあるので、本並先生他コスモス団員は急ぎ「ねむかホール」に移動しました。

「天の火」と都島憲法九条の会公演曲をレッスン 12月2日（金）

□12月2日（金）は奥村さんの体操と檀先生のヴォイストレーニングに始まり、本並先生の指揮、静さんのピアノで、「天の火」と都島憲法九条の会公演曲（シルクロード、死んだ男の残したものは、なぜ、ねがい、林道人夫、百万本のバラ[千秋さんソロ]、歓びのナーダムと、フィンランディア）をレッスンしました。出席は全30名でした。

□支援コンサートの時、皆が現地で申し込んでいた「写真集 未来へ伝えたい陸前高田」と「希望の一本松クリアファイル」がずっしり檀さんのところへ届き、今日はキャリーバッグでねむかホールへ運搬し配布していただきました。この写真集は内容といい、出来上がりといい、値段以上の価値がありますね。

..... みかづきスマイル

「私の好きなこの街コンサート」の「うたう会」で、津波で家族全部をなくした少女が一人でしっかり歌ってくれた曲です。檀さん、村嶋由紀子さんが、「ふきのとう合唱団」のJ高橋さんから歌詞を教えてもらいました（次頁）。編集子が4時間かけてネットと格闘してもたどりつけなかった歌詞です。「君のそばずっと」や、「君のほほえみ」などの歌詞をあらためて見ると、少女のけなげさにまた思いがつのって、泣けてきてしまいます（昴ニュース№335 参照）。



みかづきスマイル

作詞・作曲 山口たかし (ロケットくれよん)

♪ねえ 空を見て 空がわらってよ
ねえ 空を見て 今夜はみかづきスマイル♪
夜が明けるまで ずっと
君のそばで ずっと
明日へいっしょにみかづきスマイル
明日へいっしょにみかづきスマイル

空のほほえみ 君をてらすよ
君のほほえみ みんなをてらすよ
みんなのほほえみ 空をてらすよ
明日へいっしょにみかづきスマイル
明日へいっしょにみかづきスマイル

♪くりかえし♪



「みかづきスマイル」※

東北の仲間から写メが届きました。前を向いてがんばっているステキな笑顔でした。その写メを見て息子（3さい）が、みかづきを見たとき「そらがわらってる」とつぶやいたことを思い出しました。仲間の笑顔が、みかづきスマイルに見えてできた曲です（山口たかし）。

※「ロケットくれよん」（写真。もと保育士のコンビ、コンサート活動で、保育界を中心に「うた遊びのおにいさん」として、ブレーク中）が「東北支援チャリティーコンサート」で発表したCDの収録曲です（編集者）。

村嶋由紀子さんは阪神淡路大震災の時、現役の教師として、「教育復興担当」、「心のケア担当」をされた経験から、少女が一人で皆の前で歌ったことが、「泣けてきてしまう」だけでなく、いかに大切なことだったかを、「私の好きなこの街コンサート」を終わってから起きた論文※の中で述べておられます。熱い思いの漲る全文はぜひ団員の皆さんにも読んでいただきたいのですが、以下にあの時の少女に関することだけを抜粋して記します。

…私と手を繋ぎながらステージの真ん中に歩み出た彼女は、「みかづきスマイル」という歌を歌い始めた。ピアノ伴奏もないアカペラのその声は、なんとかぼそく、美しく澄んだ声だったろうか。今でも胸に残る切ない歌声だった。歌う前におばあちゃんが「この子はお父さんもお母さんも一緒にいたもう一人のおばあちゃんも流されて亡くなってしまったんだけど、元気でがんばっているから、そのことを示したいからどうしてもここで歌いたい。そう本人が言うので。」との話だった。歌いたいというのが本人の意思であることにびっくりしたと同時に、私は過去の経験から今彼女がここで歌うことは絶対に大切にしなければいけないことだと感じた。消え入りそうな歌声の中に、その少女の確かな「意思」があったことをそこにいる全員が感じ取った。

「ねえ、空を見上げて空が笑っているよ 夜が明けるまでずっと君のそばで 明日へ一緒に三日月スマイル」の歌声の中に、懸命に笑顔でがんばるよという、大好きな歌に託したけなげな気持ちを感じとった。そして私は心の中で、「ああ、やはりここに『あの日の子どもたち』がいる！」と叫んでいた。…

論文はこのあと、阪神淡路大震災で親を亡くしたり、友達を失ったり、避難生活を強いられた子供達が、「震災新聞」を作ったり、「震災作文」を書いたりする中で、自分の頭に張り付いている悲しみや苦しみに自ら向き合い、自己表現し人に伝えることでそれらを乗り越えて行った事実を示し、震災対策の主対策にとりあげるべきとの提言として述べておられます。少女も、皆の前で勇気を出して歌うという自己表現をした中で、悲しみ苦しみを乗り越えて、しっかりと前を向いて生きて行ってくれることと思います。

※「阪神・淡路大震災から17年の日々の、東日本大震災から8ヶ月の子どもたちへ」 村嶋由紀子

「みかづきスマイルの少女」がNHKに出演します！！

12月11日（日）PM9：15～10：04 ←

「NHKスペシャル・シリーズ東日本大震災 震災遺児1500人」

放送時間を間違えました。訂正します。

「みかづきスマイル」の少女・海音（かのん）ちゃん・小学2年生は、仙台市若林区で津波に会い、両親、9歳の姉、おばあちゃんの家族4人全てが津波で亡くなり、陸前高田の、かろうじて被災から免れた父方の祖父母（コンサートに付き添っていました）に引き取られたとのことです。彼女のことは「女性週刊誌」すでにとりあげられ、それを見た人が海音ちゃんに、「ロケットくれよん」のCDをプレゼントしたのだそうです。おばあちゃんから、皆さんへ、コンサートのお礼と、NHK出演を見てやってほしいとの伝言をうけています。（村嶋由紀子さん情報）